

水・環境ソリューションハブとアジア開発銀行との連携会議（結果概要）

日 時：平成 25 年 8 月 1 日（木）

場 所：東京国際展示場（ビックサイト） 会議棟 101 会議室

主 催：国土交通省

協 力：日本サニテーションコンソーシアム（JSC）、アジア開発銀行（ADB）

出席者：

アジア開発銀行

地域及び持続可能な開発局持続可能なインフラ部	ジンミン・ファン	都市開発上級専門官
オペレーション・財務管理部	宮尾 泰助	調達専門官
ベトナム駐在員事務所	フーバー・ジェニー	主席都市開発専門官
駐日代表事務所	玉置 知巳	事務所所長
	前 利正	事務所次席

国土交通省

水管理・国土保全局下水道部	加藤 裕之	流域管理官
水管理・国土保全局下水道部下水道企画課	若公 崇敏	課長補佐

先端連携機関（AAA）

北九州市、大阪市、東京都、横浜市、神戸市、福岡市、川崎市、埼玉県、日本下水道事業団

その他

日本サニテーションコンソーシアム、日本下水道協会

結果概要：

- 国土交通省より、世界の水問題解決に向けた国土交通省の取り組みや水環境ソリューションハブ（WES Hub）の役割、AAAの有するノウハウやADBとの今後の連携可能性について説明。

ADBのファン氏より、ADBの水と衛生分野の戦略と今後の方針を概説。主な内容は下記の通り。

- 水セクターにおける今後の投資方針（2011-2020年までに2-2.5兆）。特に衛生・排水管理分野については現在水セクターの貸し付けで10数%のシェアを2020年までに25%まで引き上げたい。
- ADBの水事業体パートナーシッププログラム（WOPs）については、これまで18のプロジェクトが完了し、年内に新たに16のプログラムに着手すべく調整中。同プログラムでは、現在メンター機関が不足している状況であるため、案件形成の契機作りとの位置づけも可能であろうことから、日本側の積極的な関与を期待したい。

ADBベトナム事務所のジェニー氏よりベトナムにおけるADBの活動について概説。

- ベトナムは既に水と衛生のMDGsを達成し、現在はさらに上位のベトナム開発目標に向け努力しているところ。
- ドナー間の役割分担により、ベトナムでは世銀やJICAが上位10都市の衛生施設の整備を担当し、ADBでは人口5万人以下の自治体を分担している。
- 貧困削減日本基金（JFPR）を活用した人材育成技術協力（CDTA）を実施中。同スキームを活用してベトナムの地方政府職員等を日本に招聘し、日本の下水道の状況を学ばせたいが、制度上の制約等から実現していない。
- ベトナムに対しては、今後も下水道に関するプロジェクトが継続して投資される見通しであるため、WOPsプログラムやそのほかの技術協力プログラムへの自治体の関与を期待したい。

AAAの代表機関（北九州市、神戸市、大阪市、横浜市）より、各都市における国際協力の実績や今後のADBとの連携可能性に関して発表

WES-HubとADBの今後の連携可能性について議論。概要は以下の通り。

- まずは既存の事業体間協力プログラムである WOPs の活用に向けて、引き続き情報交換を続けることが必要。草の根技術協力事業（JICA）との相違点があるが、将来的に ADB による事業展開が予定されている都市においてこのような協力関係を構築することは、我が国企業のプロジェクト参画に当たる事前情報の収集の意味でも非常に有益
- 今後とも日本サニテーションコンソーシアム（JSC）を窓口として ADB の事業やプログラムに関する WES-Hub との情報共有を継続しつつ、必要に応じ ADB 本部（マニラ）にて更なる具体的な都市間協力等案件形成に向けた会議を開催することも検討



加藤流域管理官の挨拶



若公課長補佐の発表



ジンミン・ファン氏の発表



発言するフーバー・ジェニー氏



会場全体の様子



下水道展会場を視察する ADB 専門家